

## 春季見学会の見どころ

ゴシック体は『日本史用語集』（山川出版社）収録の用語

### ○馬場大門のケヤキ並木

国指定天然記念物。このケヤキ並木は**徳川家康**が大國魂神社に2条の馬場と並木を寄進したことが始まりといわれ、「馬場」の地名はこの寄進に由来されたといわれている。幕末までは馬市も開催されていた。大鳥居から北に向かってケヤキ並木を歩いていくと、右側の歩道に**源義家**像が見えてくる。初めてケヤキが植えられたのは、平安時代に**前九年の役**の戦勝祈願成就のお礼として源義家が並木を寄進したという伝来による。

### ○府中高札場

都指定旧跡。旧甲州街道と府中街道の交差するかつての府中宿の中心地に位置する。府中高札場は往来の多い**宿場**にあったため、他の村よりも多くの高札が掲げられた。当時の姿をとどめる高札場は少なく、非常に貴重である。

### ○大國魂神社

都指定有形文化財（建造物）。社殿によると景行天皇41年（西暦111年）5月5日の創建で、武蔵**国造**が代々奉仕したといわれる。奈良時代以降、武蔵**国府**が当地に置かれると武蔵国内諸神を祀る武蔵総社とされ、小野大神・小河大神・氷川大神・秩父大神・金佐奈大神・杉山大神の六祭神を祀る六所宮となった。『吾妻鑑』には、源頼朝の妻・**北条政子**の安産祈願が行われた関東十社の一つに「武蔵六所宮」が挙げられている。また、ゴールデンウィークに一週間行われる例大祭「くらやみ祭」は東京都の無形民俗文化財に指定されている。

### ○武蔵国府跡（国衙地区）

国指定史跡。武蔵国府跡は、奈良平安時代の武蔵**国府**中心地にあたる**国衙**の跡地である。建築跡の一部が復元されている。ふるさと府中歴史館で出土遺物等が公開されている。

### ○武蔵国府跡（国司館と家康御殿）史跡広場

第1期整備工事を終え、「国司館と家康御殿史跡広場」として平成30年11月25日にグランドオープンしたばかりである。この場所は、今から1,300年ほど前に武蔵国府の**国司館**があった。さらに今から430年ほど前に、**徳川家康**の府中御殿も置かれた。古代の武蔵国府に都から赴任してきた国司の居室兼執務室である国司館の建物を2.4メートルの柱によって復元し、また、古代万葉集に登場する草木を植えた「国司館万葉の庭」もある。

### ○御嶽塚古墳

西府駅周辺から西方の市境にかけて御嶽塚古墳が広がっている。西府駅南側にある市史跡御嶽塚（御嶽塚5号墳）は、御嶽塚古墳群で**墳丘**の残る唯一の古墳である。周溝をめぐらせた直径約2.5mの円墳で、現在の墳丘の高さは、約1.5mである。周溝から6世紀前半の**土師器**が出土している。

### ○武蔵府中熊野神社古墳

国指定史跡。国内最大・最古の上円下方墳で、1段目が約32mの方形、2段目が約24mの方形、3段目が直径約16mの円形を呈する3段築成の古墳である。内部主体部は切石積**横穴式石室**で、全長は約8.7m、前庭部、羨道、胴張り気味の前室と、胴張りの**玄室**からなる。平成15年の調査により上円下方墳と確認され、平成17年7月14日に国の史跡に指定された。古墳南側に国史跡武蔵府中熊野神社古墳展示館があり、実物大の石室復元展示室に実際に入って石室の大きさを体験することができる。

### ○府中市郷土の森博物館

多摩川の河川敷を含めた緑地公園内に敷地13万m<sup>2</sup>をもち、プラネタリウムを併設した博物館、古民家を移築復元した古民家園、武蔵野の雑木林などの自然を復元する植栽公園などがある。園内には旧府中町立府中尋常高等小学校・旧府中町役場庁舎・旧三岡家長屋門や稲作農家・養蚕農家の古民家が復元・移築されており、敷地全体を府中市の縮図として構成工夫されている。また、常設展示室は、2014年（平成26）10月にリニューアルし、古代国府以来の伝統ある府中の歴史を中心に「ムラのはじまり」・「古代国府の誕生」・「国府から府中へ」・「宿場のにぎわい」・「変わりゆく府中」・「都市と緑と」が展示されている。今回、こちらの府中市郷土の森博物館の館長によりご教授していただける貴重な機会である。